

鬼	北上市立	館
	の	
だ	よ	り
第8号		



第8回にっぽん鬼ッズフェスティバル

開幕セレモニー 「鬼の火入れ式」

2月1日(日)午後2時から、鬼の館の園内で、節分により全国から追われた鬼たちをここ鬼剣舞の発祥の地にて迎える第8回にっぽん鬼ッズフェスティバルの開幕セレモニーがおこなわれました。式のなかほどでは、鬼つこわんぱく講座受講生による鬼剣舞の披露があり、「福は内、鬼も内」のかけ声で福豆まきもおこなわれました。8日までの「鬼ッズウイーク」には、ショッピングセンター・パルにて鬼つこわんぱく展が開催されたほか、小学生の描いた鬼の絵の展示や鬼灯リールミネーション、鬼への手紙&訪問などが行われ、冬の北上は鬼一色となりました。



平成10年度の催し

～ 専 業 計 画 ～

開館5周年を迎える鬼の館平成10年度の催しをお知らせいたします。企画展は、夏、秋にひとつずつ、これに伴うトークやワークショップ、記念講演会も予定しています。鬼学講座の現地研修は第9回企画展にあわせて青森県の恐山へ…。

みなさまの参加をお待ちしております。

企画展

第8回企画展 鬼曼荼羅

(おにまんだら)

～ 山の神の復権と鬼 ～

7月12日(日)～8月23日(日)

愛知県豊橋市在住の画家・栃久保 操さんの鬼に題材をとった作品「鬼曼荼羅」を展示します。

期間中、講演会や「鬼曼荼羅灯籠」の製作も行います。



第9回企画展 冥界

(めいがい)

～ あの世界のすがた ～

10月10日(土/祝)～11月23日(月/祝)

死者の魂が行くという世界「冥界」。人々はその何を見たのでしょうか。生前の罪の深浅によって訪れる地獄とは、またそこにいる鬼とは。

日本人の死と再生の文化を考察します。



平成10年度 催しものカレンダー

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
展示			12	第8回企画展 鬼曼荼羅 23		10	第9回企画展 冥界 23
収蔵資料展	5/12	30			1/30		
鬼っこわんぱく講座 前期★/後期☆	★ 5/5		★ 7/5	★ 8/9～11	★ ★ 9/6 9/12	☆ 10/24	☆ (未定)
鬼学講座		● 6/21	● 7/19		● 9/13	◎ ● 10/18 10/27	(1泊) ● ～28 11/15
芸能公演 ◆	◆ 4/26	◆ ◆ 5/5 5/24	◆ 6/28	◆ ◆ 7/26 8/15 8/23	◆ 9/27	◆ 10/25	◆ 11/22
休館日	6, 7, 8, 11, 18, 25	1, 8, 15, 22, 29	6, 13, 21, 22, 27	3, 10, 17, 24, 31	7, 14, 16, 21, 24, 28	5, 12, 13, 19, 26	2, 4, 9, 16, 24～30
		◎ 6/14 大乘神楽大会				◎ 10/18 記念講演会	

* G.W.中の 4/30(木)は開館、展示室の保守点検のため連休明けの 5/6.7.8 は、休館となります。

教室・講座

鬼っこわんぱく講座

- 前期 ⇒ 創作活動「鬼瓦づくり」「鬼の面づくり」
 ① 5 / 5 ② 7 / 5 ③ 8 / 9～11 (2泊)
 ④ 9 / 6 ⑤ 9 / 12
- 後期 ⇒ 鬼剣舞体験
 ⑥ 10 / 24 ⑦～⑩は11月～2月
- * いずれも午後1時30分より

鬼学講座 ～ 鬼の源流を求めて～

- ① 6 / 21 「賢治と修羅 ～春と修羅から～」
 講師 力丸 光雄氏 (前岩手医科大学教授)
- ② 7 / 19 「うわさと俗信 ～身近な言い伝えから～」
 講師 常光 徹氏 (国学院大学講師)
- ③ 9 / 13 「鬼と芸能 ～蛇に化した女の悲しみ～」
 講師 門屋 光昭氏 (当館館長)
- ④ 10 / 18 「死と再生の文化」
 講師 山折 哲雄氏 (白鳳女子短期大学学長)
- ⑤ 10 / 27 移動研修・冥界と地獄探訪 (青森県恐山方面)
 講師 鈴木 明美 (当館主任学芸員)
- ⑥ 11 / 15 研究発表会 (シンポジウム)
 発表者 受講生
- * いずれも午後1時30分より

記念講演会 10月18日(日) 午後1時30分から
 鬼の館研修室にて
「死と再生の文化」
 講師：山折 哲雄氏
 (白鳳女子短期大学学長)

芸能公演

鬼の館芸能公演

- 鬼剣舞を中心とする民俗芸能の講演
- ① 4 / 26 (日) 岩崎鬼剣舞
 ② 5 / 5 (火) 岩崎鬼剣舞
 ③ 5 / 24 (日) 飯豊鬼剣舞
 ④ 6 / 28 (日) 鬼柳鬼剣舞
 ⑤ 7 / 26 (日) 滑田鬼剣舞
 ◎ 8 / 15 (土) 菅窪鹿踊 (野田村)
 ⑥ 8 / 23 (日) 二子鬼剣舞
 ⑦ 9 / 27 (日) 御免町鬼剣舞
 ⑧ 10 / 25 (日) 口内鬼剣舞
 ⑨ 11 / 22 (日) 相去鬼剣舞
 ⑩ 3 / 21 (日) 谷地鬼剣舞
- 午後1時30分より

鬼の館野外ステージにて
 [雨天時は鬼の館エントランホール]

第5回大乘神楽大会

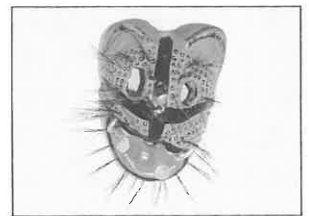
北上市内の大乘神楽をつぶさに観賞できる好機。
 6月14日(日) 午前10時から午後4時まで
 鬼の館屋外展示スペースにて [入場無料]



コレクション展示ほか

【世界の鬼たち】

5月・9月・12月
 当館に寄託されている
 海外の仮面や鬼の資料の
 公開。力丸光雄前岩手医
 大教授のコレクションや
 故利根山人氏のメキシコの仮面を展示します。



【収蔵資料展】

平成11年3月20日(金)～5月5日(水/祝)
 平成10年度に当館に収蔵された資料を中心にした展
 示です。

12月	1月	2月	3月
1	8	20	20
☆ (未定)	☆ (未定)	☆ (未定)	収蔵資料展
			◆ 3/21
7, 14, 21, 24, 28～31	1～4, 11, 18, 19, 25	1, 8, 12, 15, 22	1, 8, 15, 23, 24, 29

NEWS

20万人目のお客さま

鬼の館は、平成9年11月30日、20万人目のお客様をお迎えしました。開館から3年5か月、開館日数にして1009日目でした。

20万人目となられたのは、新潟市にお住まいの赤塚千恵子さんで、夏油温泉にお泊まりのあと、ご夫婦で当館に立ち寄られたもので、主幹の小菅一義より20万人目であることをお知らせすると、たいへん驚かれた様子でしたが、「よい思い出になりました」とにこやかに記念品を受け取られました。



和紙面を受取る赤塚さん

岩崎鬼剣舞の面と衣装

ニューヨーク・ミュンヘン

「世界の中の日本演劇」展へ

国際交流基金と米国のジャパン・ソサエティー他の主催でアメリカのニューヨークとドイツのミュンヘンの2都市において開催されている日本演劇を紹介する展覧会に、岩崎鬼剣舞の面と衣装が展示されています。面は、及川真清さん、衣装は庭元の和田勇市さんがお持ちのもので、神楽や田楽を扱った民俗芸能のセクションに展示、仏教や修験の影響を受けた芸能としてカタログにも収められています。

この展覧会は昨年10月21日から今年2月1日までのニューヨーク展に続いて3月4日から5月24日まで、ミュンヘンのヴィラ・シュトゥック美術館で開催されます。



ニューヨーク展の様子

(国際交流基金 提供)

「鬼はうち」のプレゼント

鬼の館を訪れるちいさなお客様たちに、「館は暗くおっかない所だった」という印象だけでお帰りいただくことのないように、何か楽しいプレゼントをこしらえようということになり、思案の結果、強くて優しい鬼さんのペーパーサート「鬼はうち」を作りました。かたがちうちわに似ているので「鬼うちわ」も、もじっての命名です。赤や青、紫やピンク色の「鬼はうち」を手に「ばいばあ〜い」と笑顔で館をあとにする姿はなかなか微笑ましいものです。

「鬼はうち」は、使用済みのポスターなどを使って手づくりするため、一度にたくさん作ることはできませんが、ご希望により用意をいたしますのでお早めにお申し込み下さい。



新資料から

鬼やらい (オニノヨケ)

岩手県下閉伊郡岩泉町安家松林

新屋理蔵さん 寄贈

縦 114.0cm ツノ先幅 85.0cm

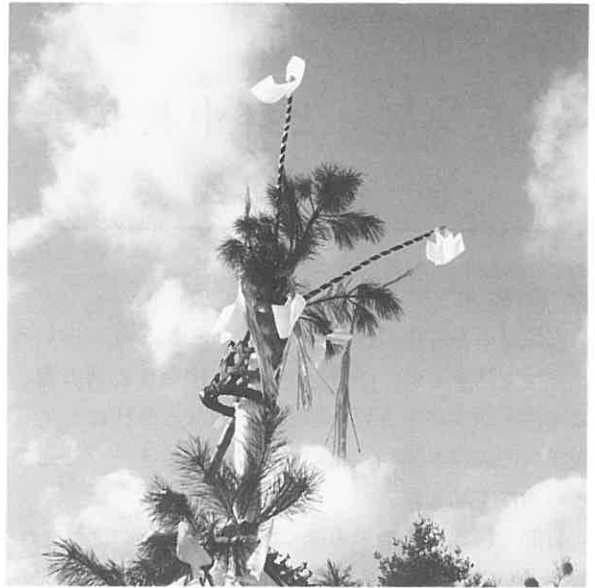
鬼を遣らう、すなわち鬼を追うというならわしは、家々で行なう小さなまじないから、大きなお寺や神社で行われる祭礼までさまざまに行われています。

岩泉町から久慈市にかけての北上山地東北部に分布する鬼やらいの行事は家ごとに行うもので、小正月に訪れる鬼を家に寄せ付けないためのおこないで、新屋さんのお母さんは「オニノヨケ」と呼んでいました。

家の門口に立てている門松の芯木の上に、門松と同様に迎えた三階の松とクルミの又木、年縄を、麻糸をまく籠と組合せて鬼の首に見立て、アキの方角(恵方)に向けてつけます。クルミは皮をむき、その皮をらせん状に巻き付け松を燃やした煤で燻^{いぶ}してから外して縹^{しほ}をつけます。

北上市の周辺では、「ヤッカガシ」といって豆殻に煮干を狭み、てっぺんを餅で止めたものを家の戸口に差して悪いものの侵入を防ぐ習わしがありましたし、奈良のまちでは、節分にヒイラギの葉とイワシの頭を玄関につけているのをよく見かけました。

どうやら鬼は、尖ったものや臭いの強いものに弱い



と考えられている様子で、松で燻すのもそれをねらったの事と考えられます。

この鬼やらいは、2月正月に焼きますが、その時に体を撫でておくと、アブヤスガリ、蚊に刺されないといわれています。

このページでご紹介した資料は、

平成9年度 新収集資料展

期 間 3月20(金)～5月5日(火)

場 所 北上市立鬼の館企画展示室

でござらんになります。

平成9年度 受入資料

〈ありがとうございました〉

■鬼鎮神社御霊代2点・御守〔埼玉・鬼鎮神社〕
 〈寄贈・東京都 市野川和夫氏〉 ■浮世絵・歌川国芳画「東海道五十三對 岡部」〈購入〉 ■浮世絵2点〈寄託〉 ■木版画・伊藤卓実作「鬼神のお松」〈寄託〉 ■絵皿「鬼が笑う」「鬼の念仏」計3点〈寄託〉 ■絵画・栃久保操「鬼曼荼羅」4点〈寄託〉 ■鬼曼荼羅万燈3点〈寄贈・愛知県栃久保操氏〉 ■鬼色彩画(草紙)〈寄託〉 ■中国貴州省老漢族仮面3点・ニューヘブリデス諸島儀礼面・レンネル諸島儀礼面・正倉院舞楽面〈寄贈・東京都 伊藤清司氏〉 ■鬼土鈴(大牛蟹)〈寄贈・鳥取県溝口町〉 ■

鬼絵馬〈寄贈・広島県神辺町商工会商工青年部〉 ■ 大津絵4点・鬼台つきおかめ盃〈寄託〉 ■綿絵・歌川国磨作「俵藤太の百足退治」3枚一組〈購入〉 ■ 鬼やらい(オニノヨケ)〈寄贈・岩手県 新屋理蔵氏〉 ■地獄絵3点〈寄贈・岩手県 工藤正行氏〉 ■木版画・谷内博司作「豊饒」「供養」「太田清水山門」〈寄贈・岩手県谷内博司氏〉 ■豊橋鬼まつり絵馬〈寄贈・愛知県 神明宮〉 ■鬼絵馬2点〈寄贈・岡山県鬼が辻実行委員会〉 ■仮面(故利根山光人氏コレクション)62点〈寄託・東京都 利根山弥恵子氏〉
 【数量の記載のないものは1点。資料名・点数・受入れ種別・受入れ先の順で記載しました。】

鬼学ノート

トシドンと郷中教育

門 屋 光 昭

はじめに

宮城県のある市の校長会で、「子どもと鬼」というテーマで話をした。子供達が初めて出会う昔話の鬼、太宰治が幼少のとき見た地獄図の鬼などを枕にして、鬼学入門講座へ誘い、鬼の複雑多岐なイメージをとりとめもなく話した。

質問で、地元紙の声の欄に載った鬼の絵の話がでた。我が子が学校で愛らしい鬼の絵を描いたのだが、先生から「鬼は怖いのだ、おかしい」といわれたらしく、以後、絵を描こうとしない。おかしいのは、先生の方ではないか、という親の指摘だったようだ。

北上市でも鬼の館ができて、鬼への固定的なイメージがかなり変わりつつある。市民憲章で「あの高嶺 鬼すむ誇り／その瀬音 久遠の賛歌／この大地 燃えたついのち／ここは 北上」とうたい上げた意味が少しずつ理解されてきている。

だが、鬼は災いをなす者、人をとって喰う者、そうしたイメージだけが先行する人も多い。男鹿でナマハゲは鬼ではないと抗議されたとか、三陸でスネカは鬼ではないから写真撮影は断わられたとか、そうした調査報告を学芸員から受けることもしばしばある。災いをもたらす鬼から悪霊の侵入を防ぐ鬼へ、追われる鬼から招かれる鬼へ、その大転換が日本的な鬼の一つの側面、そんなふうに私は考えているのだが。

北の春来る鬼 —— ナマハゲ・スネカ

岩手県の沿岸地方のスネカ・ナモミは、小正月（1月15日）夜の訪問者である。旧暦正月の満月の夜、異形の面やミノ・腰ケラなどで扮装した年男が各家をまわり、泣き虫の子やカバネヤミ（怠け者）の嫁を戒めて歩く。秋田県男鹿地方のナマハゲ、山形県遊佐地方のアマハゲ、新潟県村山地方や石川県能登地方のアマハゲなどは、大晦日に訪れるものもあるが、同じ行事である。

家の者との間には「泣ぐワラシァいねがぁ。いうごと聞かねえワラシァいねがぁ。」「おらえにゃ（私の家

には）泣ぐワラシァいねがんす。」、あるいは「泣ぐワラシァいねがぁ。かばねやみいねがぁ。」「泣ぐワラシァもかばねやみいねがら、帰ってけらっしゃい。」などの問答が交わされ、餅や果物・酒などが馳走される。

ナモミやスネカ、ナマハゲなどは、怠け者を戒め、家の繁栄と五穀の豊穡を祝福して歩く、来訪神の性格を持っている。折口信夫は「春来る鬼」と呼び、マレビト神の一種で、カミ・モノ・オニが同一線上にあるとした。

南の来訪神 —— トシドン

「春来る鬼」を始めとする聖なる来訪神は、北陸から東北地方に特有なものではない。鹿児島県や沖縄県の南西諸島では、仮面仮装して1年に一度、人々の前にあらわれ、幸福や豊穡をもたらすとされる来訪神の信仰が盛んである。トカラ列島悪石島のボゼ、宮古島島尻などのパーント、石垣島川平のマユンガナシ、波照間島のフサマラー、西表島古見などのアカマタ・クロマタ、八重山諸島各地のミロク・アンガマ、そして下甌島などのトシドンなどがそれぞれである。特にトシドンはナモミやスネカ、ナマハゲと同種の行事である。

下甌島へは、鹿児島県串木野市から船で行く。高速艇で1時間15分、甌島列島を島伝えに行くフェリーで4時間。東シナ海に浮かび複雑に入りくんだ海岸線を持つ美しい島である。カノコユリの自生地として知られ、6月から7月にかけて花咲き、甘い香りを放つ。

トシドンの伝承地は、鹿児島県薩摩郡下甌村の手打（港・麓・本町）、片浦野、瀬々野浦、青瀬の四地区で、手打地区の3か所の保存会を含めて、6保存会が保存伝承している。

トシドンは、ナマハゲと同じ大晦日の夜に、幼児や小学校の低学年の子のいる家を訪れる。

手打地区3か所のトシドンの仮面は、長い三角の鼻が印象的だった。反物紙（ダンボール紙）に目・口を描き、眉や頬ひげをソテツの葉、髪をシュロの毛などでつくり、長くとがった三角の鼻をつける。身はワラミノやシュロミノをまとうが、ゆったりとした上衣と山袴風の下衣だけで歩く所もある。港では、昭和の半ばまでは丈夫な糸で刺したドンザと呼ばれる仕事着を着ていたが、今は市販の毛布にくるまって、手足も見せないようにしている。手には餅を入れるカマスを持つ。

トシドンは若者が扮するが、同様な扮装をした中高生などが家来衆として付き添う。普通、2、3人が組になって、馬のいなきをしたり、庭で地を踏みしめたり、玄関の戸を激しくたたいたりしてやってくる。外の暗がりから、大音声に「おるか、おるか、〇〇ノきて、しょうじば開けえノ」と、子供の名を呼んで戸や障子を開けさす。

座敷に上がると、トシドンは両親のかたわらで正座している子供に話かける。ナマハゲのように家の主人と問答するのではなく、子供と問答するのである。名前を聞き、子供の日ごろの行いで正すべきことを指摘する。他の子をいじめたり、だだをこねたり、親を困らせたりしたことがあればたちどころに指摘し、そんなことはしてはならないのだと念を押し、しないと約束をさせる。

次いで、良い点をほめたり、歌わせたり、踊らせたりし、声が小さければ大きな声で歌えと叱ったり励ましたりする。子供は怖さで震えながらも、一生懸命にトシドンの要望に応じる。

そうして、いよいよトシドンが帰るときがくる。トシドンは子供を側に呼んで、後ろを向いて四つばいにさせる。その背中に「年餅」を背負わせる。餅は二種類あって、良い子には餅米でついた「白餅」、いうことを聞かない子には切干甘藷を粉にして餅米と混ぜてついた「こっぱん餅」を与えることになっており、子供は戦戦恐恐となって待つが、いずれも「白餅」を授けられる。

やがて、トシドンは膝で後ずさりしながら座敷から出て、外の暗がり消えて行く。子供に「きて、しょうじば、しめえノ」といって、戸や障子をきちんと閉めさせることも忘れてはいない。



この場合、餅はまさしく年餅であり、子供にとってはお年玉である。用意するのは各家で、直前にトシドンの家来衆（ツキシ）や世話役が子供に知れないようにもらっておく。そのとき、戒めて欲しいことを聞いておくから、子供には身に覚えのある悪い行いが指摘できる。トシドンが天の上や天狗山、トシドン岩などに住んでいて、常に自分の行いをしているのだと子供は思うのである。

鹿児島藩の郷中教育

麓の保存会長さんによると、3か月くらいは効き目がある。ここにはいじめなどはない。自分たちはこの行事を「郷中教育」として行っている。ワラミノや面つくりは老人や中年・青年達で行い、トシドン役は青年、家来衆は中高生や小学校の高学年、世話役は保存会役員、全戸参加で実施している、ということだった。

「郷中教育」は、鹿児島藩特有の教育システムで、西郷隆盛や大久保利道らを育てた地域教育である。「郷」と呼ばれる集落単位で、1日のかなりの時間、集団行動をしながら、年かきの者が年下の者を指導する方法である。鹿児島の城下だけでなく、遠く離れた下甕島においても郷中教育が行われていたわけで、トシドンは今もその機能を保っているのである。

(かどやみつあき・北上市立鬼の館館長)



鬼の里便り

○鬼学講座

- 10/12 「年中行事の鬼」 参加者 16人
講師 当館学芸員
- 11/9 「研究発表会」 参加者 17人
受講生2人による鬼の研究発表会
- 2/13 「移動研修 春来る鬼の姿 男鹿方面」
～14 講師 齊藤壽胤氏 参加者 17人
閉講式

○鬼っこわんぱく講座

- 10/19 鬼剣舞体験 参加者 8人
講師 岩崎鬼剣舞保存会
- 11/16 鬼剣舞体験 参加者 6人
講師 岩崎鬼剣舞保存会

- 12/14 鬼剣舞体験 参加者 9人
講師 岩崎鬼剣舞保存会
- 1/18 鬼剣舞体験 参加者 5人
講師 岩崎鬼剣舞保存会
- 2/1 鬼剣舞発表会 参加者 6人
閉講式

○鬼っこわんぱく展

- 2/6 会場：江釣子ショッピングセンター
～8 鬼剣舞衣装の試着など 入場者 224人

○芸能公演

- 10/26 相去鬼剣舞 6演目
- 11/23 谷地鬼剣舞 6演目
- 3/22 岩崎鬼剣舞 6演目

入館状況

H9.4.1～H10.3.31 開館日数294日 単位：人

	小中学生	高校生	一般	計
個人	3,078	315	22,357	25,750
団体	318	0	7,007	7,325
無料	756	0	4,856	5,612
計	4,152	315	34,220	38,687

利用案内

開館時間 午前9時から午後5時まで。
なお、入館は午後4時30分まで。

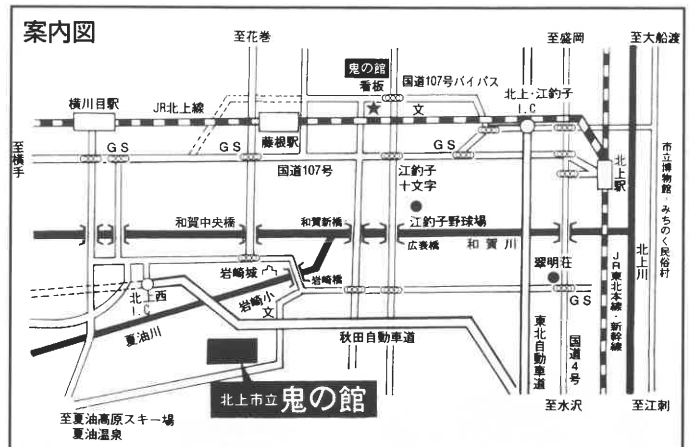
- 休館日**
- ・月曜日(国民の祝日の場合は開館)
 - ・国民の祝日の翌日(土・日・月曜日の場合は開館)
 - ・上記開館の振替日
 - ・12月28日～1月4日まで
 - ・館内整理日(11月27日～30日)

入館料

一般 300円(250円)
高校生 200円(150円)
小中学生 150円(100円)

()内は20人以上の団体料金。
市内の学校の児童生徒が学習活動で申請により利用するとき、毎月第2・4土曜日に利用するときは入館料が免除になります。

- 交通案内**
- ・JR北上駅西口よりバスで25分。
煤孫經由横川目行、瀬美温泉行「岩崎橋」下車徒歩10分。夏油温泉行(季節営業-5月～10月)「鬼の館前」下車。
 - ・JR北上駅より車で20分。
東北自動車道北上江釣子I.C、秋田自動車道北上西I.Cからともに車で15分。



北上市立鬼の館だより

第8号 1998.3.31

編集・発行 北上市立鬼の館

〒024-0321 北上市和賀町岩崎16地割131番地

TEL 0197(73)8488 FAX 0197(73)8508